



【図表1】 小学校から高校までの 1年間にかかる教育費

(単位：円)

	公立	私立
小学校	322,310	1,528,237
中学校	478,554	1,326,933
高校	450,862	1,040,168

出典：文部科学省「子供の学習費調査（平成28年度）」

(単位：万円)

16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年
2034年	2035年	2036年	2037年	2038年	2039年	2040年	2041年	2042年	2043年
54歳	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳	60歳	61歳	62歳	63歳
51歳	52歳	53歳	54歳	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳	60歳
17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳
14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳

第1子 大学入学
住宅ローン
第2子 大学入学
夫定年退職

中学受験にかかる塾代が考慮されていない

924	1,227	930	933	1,136	939	1,741	650	650	650
574	577	580	583	586	589	1,391	300	300	300
350	350	350	350	350	350	350	350	350	350
	300			200					
906	831	976	832	1,010	931	793	688	768	833
234	235	236	237	239	240	241	242	243	245
68	68	51	51	51	35	35	7	7	7
181	181	181	181	281	181	181	181	181	181
50	50	50	50	50	50	50	50	50	350
237	237	321	252	252	365	148	148	148	
104	104	217	148	148	148				
133	133	104	104	104	217	148	148	148	
136	60	137	60	137	60	138	60	139	50
18	396	-46	101	125	8	948	-38	-118	-183
1,610	2,006	1,960	2,061	2,187	2,194	3,143	3,105	2,987	2,804

浪人や留学にかかるお金、大学在学中のプラスαのお金が考慮されていない

キャッシュフローのビフォー&アフター 第2回

キャッシュフロー表に どう入れる？「教育費」

留学・浪人などの出費も反映させよう



鈴木 さや子

株式会社ライフヴェーラ代表取締役

【すずき・さやこ】

ファイナンシャルプランナー（CFP）・1級FP技能士・住宅ローンアドバイザー。慶應義塾大学環境情報学部卒業。損害保険会社出身。家族が笑顔になれるための生活に役立つお金の知識を、主に女性向けにセミナーやコラム記事などを通じて情報発信。保険などの商品を一切販売しないFPとして活動中。専門は教育費・保険・住宅ローン・マネー&キャリア教育。

教育費を制するには、 教育費の目安を知ろう

私は子育て世帯の方からご相談いただくことが多いのですが、ほとんどの方が「大学を卒業させられる家計なのか」といった教育費に関する不安を口にされます。特に子供が小さいうちにマイホーム購入も検討されていることが多く、ローン返済と教育費をトータルで考えて一層不安になるようです。こうした不安もキャッシュフロー表を活用すれば対策をたてられ、減らすことができます。今回は教育費に焦点を当て、キャッシュフロー表への入れ方と考え方をお伝えします。

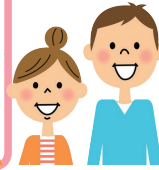
どのくらいかかるか全く予想がつかないのが教育費。今後がまだ想像できない小さい頃に教育費をプランニングするコツは、まず目安を知ること。計画通りにいかななくて当たり前。「いつ」「いくら」かかるのか、目安だけは知っておきましょう。小学校から高校までの目安となる主な教育費は【図表1】の通りです。このデータには、給食費など学校にかかる費用以外に、習い事代も入っています。公立と私立では、かかるお金の大きな差があることがわかりますね。

なお、【図表2】【図表4】では保育園に通うとしているため、

【図表2】教育費をざっくり見積もったキャッシュフロー表

Before
ビフォー

- 家族構成：夫 会社員 38歳
妻 派遣社員 35歳
子 1歳
- 2年後には、もう1人子どもが欲しいと思っている
- 1年後にマイホーム購入予定
- 中学受験をさせたい
- 私立中高一貫校を希望
- お金を理由に大学進学をあきらめさせたくない
- 場合によっては浪人も可
- 大学在学中に短期留学もさせたい



キャッシュフロー表作成時の問題点

進学時の費用、中学受験のための塾代、浪人や留年にかかる費用が含まれていない
→ 子供がその年齢に達した際、不足する可能性が高い

	現在	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	
	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	
本人	38歳	39歳	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳	51歳	52歳	53歳	
配偶者	35歳	36歳	37歳	38歳	39歳	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳	
第1子	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	
第2子			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	
ライフイベント	住宅購入		第2子誕生	第1子小学校入学			第2子小学校入学			第1子中学校入学			第2子中学校入学				
A：収入	変動率	730	773	674	776	828	830	832	833	835	887	888	860	863	866	868	921
夫の収入	0.50%	530	533	535	538	541	543	546	549	552	554	557	560	563	566	568	571
妻の収入	0.00%	200	200	100	200	250	250	250	250	300	300	300	300	300	300	300	350
その他の収入			40	39	38	37	36	35	34	33	32	31					
B：支出		645	1,207	678	632	705	826	716	645	719	649	724	651	828	755	831	1,079
基本生活費	0.50%	216	217	218	219	220	221	223	224	225	226	227	228	229	230	232	233
生命保険料等		51	51	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
住居費		150	781	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181
自動車費		50	50	50	50	50	250	50	50	50	50	50	50	50	50	50	300
教育費		48	48	30	54	54	45	62	62	62	64	64	64	165	165	165	237
第1子教育費		48	48	30	30	30	30	32	32	32	32	32	32	133	133	133	104
第2子教育費					24	24	15	30	30	30	32	32	32	32	32	32	133
その他の支出		130	60	131	60	131	60	132	60	133	60	134	60	134	60	135	60
C：年間収支(A - B)		85	-435	-4	144	123	4	116	188	116	238	165	209	35	111	38	-158
D：貯蓄残高	0.01%	700	266	262	406	529	533	649	837	954	1,192	1,356	1,565	1,600	1,711	1,749	1,591

注：小数点以下で四捨五入をしているため数字の合計が合わない箇所もあります。

ランドセル代や制服代など進学時の費用が入っていない

家族で進路について話し合う

一例として、3歳児未満を月額4万円、3歳児以降を月額2.5万円、重複時期の第2子は半額と仮定しています。実際にはお住まいの地域に合わせ、想定保育料を入れましょう。

次頁の【図表3】の通り、大学になると同じ私立でも文系・理系・医歯系によってかなりの差が生じます。初年度にはもつとも安い国立でも130万円以上かかっており、まさに教育費のピークです。自宅を出て一人暮らしをすることが想定できる場合は送り分も入れましょう。送り金額の平均は「教育費負担の実態調査結果」によると年間約93万円です。

主な教育費の目安がわかったら、いよいよキャッシュフロー表作りです。とはいえ、我が子にどんな進路を歩ませたいと思っているか、夫婦でもなかなか話し合う機会はありません。進路によってマネープランは大きく変わるため、ここでしっかり互いの教育観について共有しましょう。そして互いの思いを盛り込んだキャッシュフロー表を作成、検証しておくことで安心です。今回のケースでは、「中学受験」「お金を理由に大学進学をあきらめさせたくない。場合によっては浪人もOK」「大学時代の短期留学」「大学時にはアルバイトをほどほどにして、勉強に集中させたい」といった思いがあるようです。

このように公立か私立というだけでなく、一般的な進路以外でどのような考えを持っているかも話し合い、必要に応じて費用を入れましょう。

価値観に合わせ、かかるかも知れないお金も入れる

それでは、キャッシュフロー表に入れずにプランニングしてしまいがちな一般的な学費以外にかかるお金について、目安をお伝えします。

短期留学費用として
大学2年時に60万
円を加算

教育費に関する思いを加算
した結果、資産はピフォー
と比べ約960万円減少した

(単位：万円)

16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年
2034年	2035年	2036年	2037年	2038年	2039年	2040年	2041年	2042年	2043年
54歳	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳	60歳	61歳	62歳	63歳
51歳	52歳	53歳	54歳	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳	60歳
17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳
14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳

第1子 浪人
第2子 高校入学
第1子 大学入学
第1子 短期留学
夫定年 退職
住宅 リフォーム
第2子 浪人
第2子 大学入学
第2子 短期留学

924	1,227	930	933	1,136	939	1,741	650	650	650
574	577	580	583	586	589	1,391	300	300	300
350	350	350	350	350	350	350	350	350	350
	300			200					
906	831	879	921	1,090	834	1,050	768	788	1,001
234	235	236	237	239	240	241	242	243	245
68	68	51	51	51	35	35	7	7	7
181	181	181	181	281	181	181	181	181	181
50	50	50	50	50	50	50	50	50	350
237	237	224	341	332	268	405	228	168	168
104	104	100	237	228	168	168			
133	133	124	104	104	100	237	228	168	168
136	60	137	60	137	60	138	60	139	50
18	396	51	12	45	105	691	-118	-138	-351
1,150	1,545	1,596	1,609	1,654	1,759	2,450	2,332	2,194	1,843

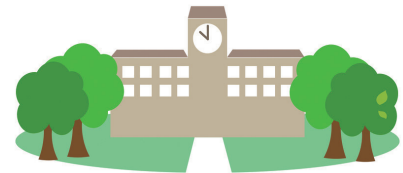
本人にどうしても行きたい
大学があるなら浪人させて
でも行かせたいと思う場合
は、予備校費用も見込む。
ここでは100万円を加算

サークル費用などプラスα
のお金として年間20万円
を毎年加算

【図表3】 大学進学に関連してかかるお金 (単位：円)

	国立大学	私立大学 (文系)	私立大学 (理系)	私立大学 (医歯系)
受験費用・入学 しなかった学校 への納付金	393,000	435,000	435,000	435,000
入学金	282,000	234,763	256,208	1,013,054
授業料 施設設備費 実験実習費	535,800	925,840	1,324,353	3,979,305
修学費 課外活動費 通学費	135,800	150,900	150,900	150,900
初年度に かかるお金	1,346,600	1,746,503	2,166,461	5,578,259
2年目以降に かかるお金	671,600	1,076,740	1,475,253	4,130,205

出典：文部科学省「私立大学等の平成28年度入学者に係る学生納付金等調査結果」、
日本政策金融公庫「教育費負担の実態調査結果（平成30年度1月）」、日本学生支援
機構「平成28年度学生生活調査」をもとに筆者作成



【進学時期にかかるお金】

【図表1】の目安金額には、小学校入学時のランドセル代
や中学・高校入学時の制服代等が入っていないため、進学時
期に20万円程度見込んでおくと安心ですね。

【中学受験にかかるお金】

地域や目指す学校にもよりますが、小3の終わりから約
3年間受験塾に通うのが一般的です。都内大手塾では3年
間で2000〜250万円かかることも。アフターのキャッシ
ュフロー表には、平均の習い事代では不足する中学受験のた
めの塾代を入れていきます。

【大学再受験（浪人）でかかるお金】

本人がどうしても行きたい大学や学部なら浪人させてで
も行かせてあげたいと考えている場合は、浪人費用も入れて
おきましょう。予備校にもよりますが、複数の講座がパッケ
ージされている場合、目指す大学・学部によって年間50万
円〜230万円など幅があり、医歯・薬・獣医学部などは
高めです。夏期講習等も考慮して、キャッシュフロー表には
100万円を入れていきます。

【短期留学にかかるお金】

英語力が必須のこの時代、子供が「留学したい」と言う
なら行かせてあげたい親も多いもの。キャッシュフロー表に
は大学2年時に3週間の短期留学をするとして、60万円を
入れています。大学時代に1年間休学して留学する場合は、
滞在費を入れて200万円〜350万円（平成30年4月時
点のレートで換算）前後が目安となります。

【大学在学中のプラスαのお金】

「アルバイトはほどほどにして、勉強に集中してほしいか
ら、サークル費用なども出してあげたい」と話す人も少なく
ありません。その場合は、目安金額にプラスαを加算しまし
よう。平成28年度の大学生のアルバイト収入は年35・6万
円ですが、一例としてアフターでは年20万円を加算しました。

After

アフター

【図表4】教育費に実際にかかる費用や親の思いを反映させて作成したキャッシュフロー表

キャッシュフロー表作成時の改善点とその効果

進学時の費用、中学受験のための塾代、浪人や留年にかかる費用も考慮

- 早いうちから、教育費の準備ができる
- 老後資金が不足することが判明したので、早い段階から対処できる

	現在	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	
	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	
本人	38歳	39歳	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳	51歳	52歳	53歳	
配偶者	35歳	36歳	37歳	38歳	39歳	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳	
第1子	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	
第2子			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	
ライフイベント	住宅購入		第2子誕生	第1子小学校入学				第2子小学校入学			第1子中学校入学			第1子高校入学		第2子中学校入学	
A：収入	変動率	730	773	674	776	828	830	832	833	835	887	888	860	863	866	868	921
夫の収入	0.50%	530	533	535	538	541	543	546	549	552	554	557	560	563	566	568	571
妻の収入	0.00%	200	200	100	200	250	250	250	250	250	300	300	300	300	300	300	350
その他の収入			40	39	38	37	36	35	34	33	32	31					
B：支出		645	1,207	678	632	705	826	736	645	719	719	784	721	898	815	901	1,119
基本生活費	0.50%	216	217	218	219	220	221	223	224	225	226	227	228	229	230	232	233
生命保険料等		51	51	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
住居費		150	781	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181	181
自動車費		50	50	50	50	50	250	50	50	50	50	50	50	50	50	50	300
教育費		48	48	30	54	54	45	82	62	62	134	124	134	235	225	235	277
第1子教育費		48	48	30	30	30	30	52	32	32	82	92	102	153	133	133	124
第2子教育費					24	24	15	30	30	30	52	32	32	82	92	102	153
その他の支出		130	60	131	60	131	60	132	60	133	60	134	60	134	60	135	60
C：年間収支 (A - B)		85	-435	-4	144	123	4	96	188	116	168	105	139	-35	51	-32	-198
D：貯蓄残高	0.01%	700	266	262	406	529	533	629	817	934	1,102	1,206	1,345	1,310	1,361	1,329	1,131

注：小数点以下で四捨五入をしているため数字の合計が合わない箇所もあります。

進学時の費用として20万円加算

中学受験の塾代として以下を加算。
小4時→50万円 小5時→60万円
小6時→70万円

キャッシュフロー表を チェックするポイント

こうしたお金を加味して作成したアフターでの教育費総額は、ピフォールと比べると1人あたり480万円高くなっており、その分貯蓄残高に影響を与えています。

教育費の視点から見たチェックポイントは次の2点です。

- ・年収から捻出できなくなる時期はいつ？
- ・子供が独立したときの親の年齢と資産

アフターを見てみると、住宅購入する1年後と育休中で収入が減る2年後、そして、第1子が中学入学する12年後以降、年収から捻出できなくなる時期（単年収支が赤字となる年）が時々現れています。とはいえ貯蓄がしつかりできているので、家計が破たんすることはなく、2人の子供を無事大学まで卒業させられることがわかります。

ところが第2子が大学を卒業した25年後になると、貯蓄残高は1843万円あるものの夫63歳、妻60歳と収入が減る時期に。生活レベルが変わらないとすると、誌面には掲載していませんが、34年後には家計が破たんしてしまいます。教育にかけるお金の考え方を見直したり、教育費以外の部分で、収入や支出を見直すことが必要なようです。

まとめ

今回の例では、特に教育費について、キャッシュフロー表にどう入れるかお伝えしました。子供が小さい頃は想像できない教育費だからこそ、夫婦で互いの価値観を共有し、「すべての思いを叶えたらどうなるか」という視点でまず作ってみることが大切です。そして進路などお金のかけ方について話し合いをしておくといいですね。

今回は「保険の見直し」について取り上げます。